

館外の研究者やボランティアと協働した箱根火山の調査研究

やましたひろゆき
山下浩之 (学芸員)

1950年代に久野久氏によって確立された箱根火山の形成史は、半世紀にわたり不動のものとなってきました。しかし、科学技術の進歩や、林道整備による新露頭の出現により、この数年で新モデルが提唱されました。それは、旧モデルでは箱根火山初期にあたる50～25万年前に2,700mにも達する巨大な成層火山を形成したと考えたのに対して、新モデルでは巨大な成層火山ではなく、中～小規模の成層火山を複数形成したというものです。もちろん、新モデルは箱根火山の初期だけではなく、後の活動についても山体形成史からテクトニクスまで、新知見で展開されています。

このような流れの中で、箱根火山の入口に位置する当館としては、箱根火山形成史の新モデルを紹介・普及することは義務とも考えられます。しかし、私の専門は岩石学で、火山はあまり得意とするところではありません。そこで、当館に隣接する温泉地学研究所の火山学を専門とする職員にも加わっていただき、新モ

デルをさらに研究するためのプロジェクトを立ち上げました(ちなみに火山学が専門の笠間学芸員が異動してきたのは立ち上げ後です)。これが総合研究「箱根火山」です。この総合研究を立ち上げるにあたり、参加する研究者全員に最初から調査研究報告書のタイトルを提示しました。例えば、「須雲川安山岩類の岩石学的特徴」や「箱根新期カルデラの形成について」などです。今年度発行される調査研究報告書には、新モデルに加えて、各々の報告がなされると思います。

今回の総合研究の中で触れておきたいのが、ボランティアとの協働です(図1)。先述のとおり、新モデルでは巨大な成層火山ではなく、中～小規模の成層火山を複数形成したことになっています。そこでボランティアと協同で各火山体の石を採集し、岩石プレパラート

を作成したり、全岩化学分析を行なったりして基礎データの収集を行ないました。

現在、総合研究「箱根火山」の研究期間は終了し、調査研究報告書を作成しています。来年(2008年)の夏には、これらの成果を公表する特別展が開催されます。特別展では研究成果の公表に加えて、公開実験等も計画しています。箱根火山に興味をお持ちの方、是非とも、来年の夏に特別展示室でお会いしましょう。



図1 博物館学芸ボランティアによる地形模型の色塗り作業。これから真っ白の地形模型に、最新の地質図を描いていきます。

神奈川県レッドデータ生物調査の本来の目的に向けて

たかくまさとし
高桑正敏 (学芸員)

とくに戦後、私たちの営みが急速に変わってきた中で、多くの野生生物が衰亡し、地域絶滅するようになりました。たとえば、かつてはふつうに見かけたキキョウ(図1)やメダカ、オオミズスマシですら、神奈川県では絶滅寸前の危機にあります。そのような事態に、現在を生きる私たちは無関心でよいのでしょうか?

当館では、こうした危機的な状況にある種(レッドデータ生物)を把握するため、

多くの研究者の協力をいただき、全国にさがかけて県内を調査してきました。調査結果は、最初は1995年に、次に2006年に衰亡原因とともに報告書(レッドデータブック)にまとめましたが、専門的な限られた部数の報告書だけでは、県民の多くの方々にこうした危機的な状況を知っていただけません。そこで、1995年版では特別展を開催するとともに図録(普及解説書)を発行し、また新聞に連載

記事掲載していただくなどの普及啓発活動を行いました。一方、2006年版ではいろいろな事情から特別展の開催ができなかったため、民間活力を頼って一般の方向への普及書の出版を計画しているところです。

そもそも、レッドデータ生物の研究目的

は、たんにその階級別リストを発表し、あるいはレッドデータブックとしてその衰亡の様子や原因を記すだけではないはず。本来は、そうした種類が地域から衰亡・絶滅することを防ぐためであり、そのためのリスト作成のほうです。衰亡・絶滅回避には、一部の研究者や関係者だけでなく、しばしば一般の方々との絶大な理解と支援が不可欠です。ですから、まず多くの県民の方々に野生生物の現状と保護の重要性を十分に知っていただく必要があります。前述の普及書が計画されました。出版はまだちょっと先ですが、従来にない企画が盛り込まれていることでもあり、ぜひ多くの方々に読んでいただき、レッドデータ生物の衰亡・絶滅回避のために理解を得たいと願っています。

当館ではその使命に、神奈川県を中心とした博物館活動とともに、「社会的な貢献」をめざすことをうたっています。調査研究の成果をもとに、社会に対して指導的な役割を果たすとともに、実現に向けてアクションを起こしていきたいものです。



図1 県内からほとんど姿を消したキキョウ。